

平成22年度決算

企画課財政係【☎028 (677) 6031】

平成22年度の一般会計と特別会計の決算が9月の議会で認定されました。
歳出総額115億7,519万円となった平成22年度決算についてその概要をお知らせします。

一般会計

決算の概要

一般会計の決算額は、歳入が86億2,618万円の前年度と比べて7,318万円(0.8%)の減、歳出は77億1,849万円、7,145万円(0.9%)の増となりました。

歳入と歳出の差引額は、9億769万円、このうち2億7,029万円は平成23年度に繰り越した事業に充当するため、実質収支は6億3,740万円の黒字となりました。

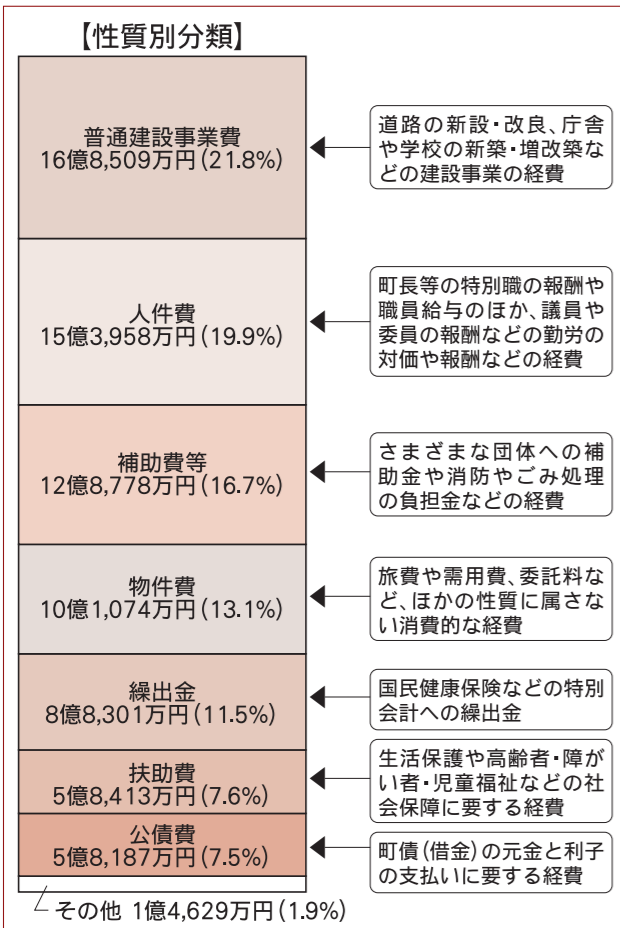
歳入

歳入でその占める割合が最も高いのは、町税で46億6,833万円、全体の54.1%を占めています。前年度と比べ12億5,808万円(21.2%)の減となりました。これは、町民税の法人税割が10億7,792万円の減となったためです。

このほか、繰入金が4億9,948万円、4億2,766万円(595.5%)の増となりました。これは、財政調整基金繰入金4億4,374万円(皆増)の増となったためです。

また、町債は、中学校大規模改造事業のための教育債9,400万円と臨時財政対策債2億8,200万円、3億7,600万円(4.4%)となり、2億750万円(123.1%)の増となりました。

町税や繰入金、繰越金、使用料など町が自主的に集めることができる自主財源は、65億4,263万円となり、その割合は75.8%になりました。



歳出

歳出を目的別にみると、総務費が最も多く21億154万円(27.2%)、次いで民生費15億9,552万円(20.7%)、教育費9億4,422万円(12.2%)、土木費9億1,603万円(11.9%)の順となっています。

前年度と比べて支出の大きく増えた項目は、民生費で、子ども手当の増により2億5,441万円(19.0%)の増となっています。

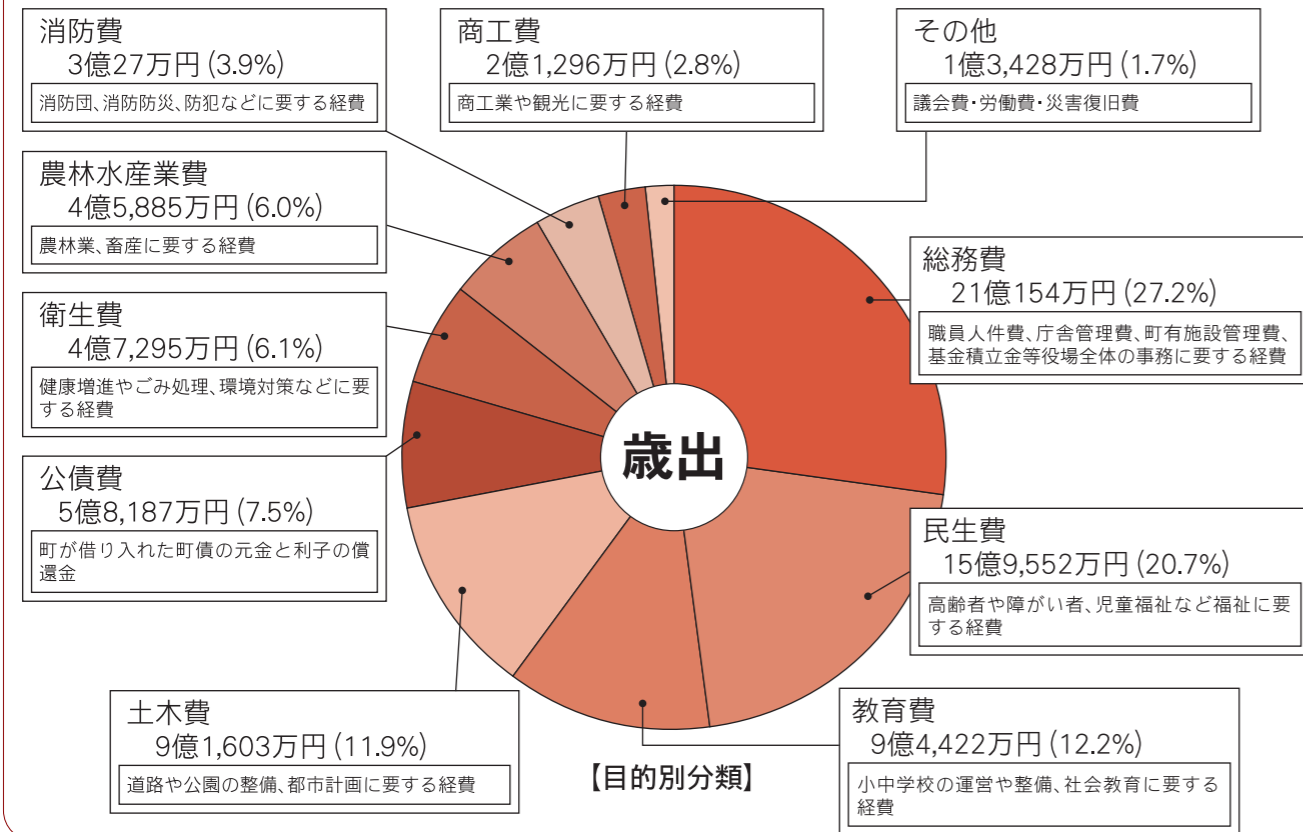
なお、土木費が2億2,178万円(19.5%)の減となっていますが、祖母井南部土地地区画整理事業の事業量の減により繰出金が減となったためです。

次に歳出を性質別にみると、最も多いのは普通建設事業費で16億8,509万円(21.8%)、次いで人件費15億3,958万円(19.9%)、補助費等12億8,778万円(16.7%)の順となっています。

前年度との比較では、光の道整備事業費の増により普通建設事業費が4億9,747万円(41.9%)、子ども手当給付費の増により扶助費が1億9,757万円(51.1%)の増となりました。

また、基金への積み立てが4億987万円(98.5%)の減、特別会計等への繰出金が1億8,511万円(17.3%)の減、補助費等が1億6,384万円(11.3%)の減となっています。

歳出 77億1,849万円



歳入 86億2,618万円

